



将来を担う子どもたちに対し、自分の身は自分で守るという「自助」、地域の人たちと協力して助け合う「共助」を学ぶ地域防災ネットワークプロジェクト訓練を、6月3日に恵我小学校・17日に松原小学校・24日に布忍小学校で実施しました。

**地域防災ネットワークプロジェクト訓練を実施**

**もしもの大災害に備えて**

**さまざまな取り組みを進めています**



「SCマンスリーまつばら」は、世界基準の安心・安全なまちづくりセーフコミュニティについて知っていただくための連載です。

▼問合せ 危機管理課

この訓練は、平成24年度から日曜参観を利用して毎年3校で実施しており、平成28年度で、市内の小学校全15校での訓練が終了したため、平成29年度から2巡目がスタートしました。1巡目は、6年生が主体の訓練でしたが、2巡目からは1年生から6年生までの全児童および保護者も参加する総合的な訓練となりました。訓練では、町会連合会をはじめ、各種団体との協働のもと、毛布担架訓練、水難救助競争などの訓練や、非常食の炊き出し訓練が行われました。また、松原市セーフコミュニティ災害時の安全対策委員会によるアンケート活動も実施しました。

**感震ブレーカーの例**

分電盤タイプ(内蔵型)	分電盤タイプ(後付型)
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能
約5万～8万円	約2万円
電気工事が必要	電気工事が必要

コンセントタイプ	簡易タイプ
コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断	ばねの作動によりブレーカーを落として、電気を遮断
約5,000円～2万円	約3,000円～4,000円
電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

**感震ブレーカーを  
設置しましょう**

市では、平成29年度より感震ブレーカーの設置に補助を設け、今年も引き続き補助を実施しています。感震ブレーカーとは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止めるものです。大地震が発生すると停電が起こります。その後、電気が復旧した時に通電火災が多数発生することが過去の地震から分かっています。通電火災を予防するには、感震ブレーカーが有効とされています。

※分電盤タイプは、感震機能付住宅用分電盤(JWDS0007付2)の規格で定める構造、機能を有するものに限りです。  
※コンセントタイプと簡易タイプは、「消防防災製品等推奨マーク」が表示されている物に限りです。



なお、阪神・淡路大震災、東日本大震災において発生した火災の要因で電気によるものが、60%以上と多発しています。